

幼児を対象とした絵本活用による健康教育の検討

むし歯・排便に関連する絵本の内容分析

A study of Health Education Using Picturebooks intended for children
Content analysis of an oral care and defecate related picture books

齋藤 めぐみ

Megumi SAITO

キーワード：領域「健康」 健康教育 教材 絵本の選書 保育者養成

I. 緒言

領域「健康」は、健康で安全な生活をつくり出す力を養うとして幼稚園教育要領、保育所保育指針、こども園教育・保育要領にその内容、ねらい、内容の取扱いが示されている。「幼稚園教育要領 2018」に示された健康のねらいと内容は以下の通りである。

ねらい

- (1) 明るくのびのびと行動し充実感を味わう
- (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする
- (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する

内容

- (1) 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する
- (2) 自分の体を十分に動かし進んで運動しようとする
- (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け見通しをもって行動する
- (4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む
- (5) 先生や友達と食べることを楽しみ食べ物への興味や関心をもつ
- (6) 健康な生活のリズムを身に付ける
- (7) 身の回りを清潔にし衣服の着脱、食事、

排泄などの生活に必要な活動を自分でする

- (8) 幼稚園における生活の仕方を知り自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する
- (9) 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う
- (10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気をつけて行動する

これらは、園での遊びや生活を通して行えうものであるが、遊びや生活を通して行うことに加えて、子どもたちに何らかの方法で伝えることが必要とされることもある。特に内容 (9) 健康の内容に自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う、については、健康教育が必要であると考えられる。乳幼児期における健康教育とは、「健康保持のための基本的な理解を深め、日々の生活の中で具体的にどのような態度が必要となるかを理解するとともに習慣づけていくこと」である（相樂、2015）。相樂（2015）は、その方法のひとつとして、絵本や紙芝居などの教材を通して子どもにわかりやすくその症状を伝えるなど工夫が求められる、と述べている。

絵本を用いた健康教育については効果的であることが示唆された研究がいくつかある。

例えば澤田（2010）は、子どもたちが毎日元気に過ごすため、健康教育の観点から、絵本をととして子どもの排泄（排便）とトイレ環境に注目し、学童期の子どもが捉える排泄（排泄物・排泄行動など）と心身の健康との関連について明らかにした。排泄に関する絵本を取り上げ、健康教育の観点から分析を行い、子どもの心に喜びの種をまけるような教材を精選していくことが重要であると示唆している。

川崎（2011）は、学童保育で絵本の読み聞かせを通して食育を行ったところ、食に関する関心が高まったことを報告し、絵本の持つ力を活かした食育は、食育の一方法として有用であると示唆している。

しかし、瀬戸山ら（2009）は、国内において、健康な子どもが身体の基本的知識を理解することをめざしたプログラム・教材に関する研究は、十分ではない、と指摘している。絵本に限って言えば、物語絵本に関しての良書についての紹介は多いが、健康教育に用いられる可能性のあるテーマのある絵本についての研究はほとんどない。就学前の子どもたちにとって、絵本から受ける影響は大きいこともあり、健康教育が目的の科学的絵本も内容を吟味することが望まれる。

以上より、健康教育関連の絵本についての内容を調査することは、保育の現場における健康教育に用いる絵本選書の一助になる。

そこで、本研究は、病気の予防という観点からの健康教育に用いられる可能性のある絵本から“むし菌”と“排便”にテーマを絞り、健康教育で用いる教材としての有用性を検討することを目的とする。

この2つにテーマを絞ったのは、乳幼児にとって最も理解しやすい身近な健康教育であると考えられるためである。排便については、広義での食育とも考えられるが、現在まであまり焦点をあてられていない。またどちらかといえばト

レーニングの方が注目されがちなので、排便の大切さに焦点をあてて調査する必要があると考える。

Ⅱ. 方法

1. 分析対象の絵本

千葉敬愛短期大学メディアセンター蔵書検索、および絵本、児童書を紹介する日本で最大のウェブサイト「絵本ナビ」にて“生活の絵本”の毎日の生活、生活の中で…から“菌、むし菌絵本”“うんち、おしっこ”、学ぶ・知識の絵本の科学から“からだの秘密の本”をキーワードとして絵本を検索した。その中から千葉敬愛短期大学のメディアセンターに所蔵の絵本、および2021年12月までに入手できた絵本と合わせて30冊を本研究の分析対象とした。研究者が精読した後、健康教育と考えられない内容、例えば、むし菌のメカニズムが描かれていない絵本、トイレトレーニングに焦点をあてた内容は対象からはずした。

2. 分析方法

有馬（2021）の内容分析法を参考として絵本のテキスト部分から共通の内容と言葉を抽出してキーワードを決定し、絵本別にその有無、描かれ方を調査した。

Ⅲ. 結果

対象とした絵本を表1に示した。抽出した絵本からむし菌や排便の詳細について描かれていない絵本6冊を除外し、むし菌関連は13冊、排便関連は11冊を対象とした。

1. 対象絵本のプロフィール

(1) 出版年

むし菌関連は、1970年代から2019年まで、排便関連は、1976年から2020年までに出版された絵本が対象であった。

表1 対象の絵本

むし歯関連絵本

ID	書名	作	監修 推薦	出版社	出版年	判型・頁数
1	ははのはなし	作・絵：かこさとし	○	福音館書店	1970	24P・26×24cm
2	むしばミュータンスのぼうけん	作・絵：かこさとし		童心社	1976	32P・22×19cm
3	むしばちゃんのなかよしだあれ	作・絵：かこさとし	○	フレーベル館	1980	32P・23.5×21.5cm
4	ぼくのはもうおとな	作・絵：かこさとし	○	フレーベル館	1980	32P・23.5×21.5cm
5	やさしいからだのえほん4・ むしばはどうしてできるの？	作：小野芳明 絵：せべまさゆき	○	金の星社	1994	28P・26.4×23cm
6	いーはとあーは	作・絵：柳生弦一郎	○	福音館書店	1997	24P・22×21cm
7	むし歯のもんだい	作：北川原健（歯科医） 絵：柳生弦一郎	○	福音館書店	1997	48P・26.4×23cm
8	はみがきありがとう	作・絵：風間雄吉	○	口腔保健協会	2012	32P・21×27.5cm
9	むしばあちゃん	作：荻田 澄子 絵：おかべりか	△	佼成出版社	2014	32P・25×21.5cm
10	むし歯のしょうたい	作：楠章子 絵：ながおかえつこ	○	くもん出版	2018	32P・24×22cm
11	ななみちゃんのはみがき	作・絵：つがねちかこ	○	赤ちゃんとママ社	2019	33P・25×22cm
12	じょうずな歯みがき	作：楠章子 絵：ながおかえつこ	○	くもん出版	2019	32P・24×22cm
13	歯いしゃさんはこわくない	作：楠章子 絵：ながおかえつこ	○	くもん出版	2019	32P・24×22cm

排便関連絵本

ID	書名	作	監修 推薦	出版社	出版年	判型・頁数
1	たべものたび	作・絵：かこさとし		童心社	1976	32P・22×19cm
2	みんなうんち	作・絵：五味太郎		福音館	1977	28P・25×22cm
3	うんこ	作・絵：みやしたつや		鈴木出版	1994	24P・22.6×21.3cm
4	やさしいからだのえほん2・ うんちはどうしてでるの？	作：香坂隆夫 絵：せべまさゆき	○	金の星社	1994	28P・26.4×23cm
5	うんぴ・うんによ・うんち・うんご	作：村上八千世 （トイレ環境プランニング） 絵：せべまさゆき	○	ほるぶ出版	2000	32P・21×21cm
6	うんちのえほん	作：藤田紘一郎（医者） 絵：上野直大	○	岩崎書店	2004	24P・22.6×21.3cm
7	うんちさま	作：加藤篤 絵：どいまき	△	金の星社	2011	32P・24.6×21cm
8	うんち	作・絵：いもとようこ		金の星社	2012	24P・18×18cm
9	からだのふしぎ うんちはどこへいくの？	作：マイケル・ゴールドスミス 訳：たなかあきこ 絵：リチャード・ワトソン	○	小学館	2014	14P・27.5×21.5cm
10	おなかのこびと	作・絵：よしむらあきこ		教育画劇	2015	28P・27.5×19.5cm
11	そのときうんちはどこにいる？	作・絵：きたがわめぐみ	○	日本看護協会出版	2020	32P・26.5×18.5cm

(2) 出版社

特に特定の出版社から出版が多いということはない。福音館書店、童心社、フレーベル館等物語絵本を出版している出版社の他、口腔保健協会、日本看護協会出版といった専門的な団体の出版部門からの出版があった。

(3) 作者・監修者

むし歯の絵本 13 冊のうち 12 冊は専門家の監修、または推薦の言葉があった。「むし歯のもんだい」は作者が歯科医である。排便については、11 冊のうち、監修が示されていたのは 5 冊のみであった。監修者は、むし歯は歯科医、排便は、医師、研究者、またトイレ環境整備の専門家であった。

2. 概要

口腔ケア

(1) はははのはなし

作者が子どもに歯の役割、体への影響、虫歯の原因、予防、歯磨きだけでなく栄養をとること、虫歯になったらどうなるのか？をお話し仕立てて伝える。

(2) むしばミュータンスのぼうけん

虫歯菌ミュータンスの立場から虫歯のメカニズムが描かれている。甘い物はミュータンスのえさになる。歯磨きをされたり、歯医者さんに行けたらミュータンスは活躍できなくなる、だから歯を磨いたりしないでくれ、というロスフレームでのストーリー展開である。

(3) むしばちゃんのなかよしだあれ

むしばをむしばちゃんとして、子どもにむしばちゃんにならないために、と語るという形式で甘い物、必要な栄養を摂ることを含めてのむし歯の予防について描かれている。甘いものはよくないが、全く食べないのではなく、だから食べず時間を決めればよいという内容も含まれる。

(4) はくのはもうおとな

歯医者さんのキバ山先生が歯の役割や 6 歳臼歯、歯の磨き方について語る。歯はキバと同じ

でむし歯になると食べられなくなり、動物なら死んでしまう、6 歳臼歯は生える位置から磨きづらい。歯磨きの方法として、歯ブラシの持ち方、肘をはる、鏡で見る、表裏順番に磨く等が描かれている。

(5) むしばはどうしてできるの？

むし歯ができる原因や歯の磨き方をイラストと写真で紹介。写真入りの歯の磨き方は前の表裏、奥歯の表裏、フロス、歯ブラシを使ってゴシゴシ磨くと書かれている。

(6) いーはとあーは

子どもや大人の歯の中をストーリー的に絵で紹介。歯の形やそれぞれの役割、歯の生え替わりのこと、むし歯にならないように歯を”がしがし”でなく”こちょこちょ”磨くとよいという内容。口の中の絵が印象的。

(7) むし歯のもんだい

イラストと写真入りで歯科医が虫歯についての質問に答えていくと流れでむし歯について説明されている。甘いものを食べず、歯をよく磨いていた作者の娘さんには高校生まで虫歯がなかったという。唾液の役割について触れ、歯磨き粉ではなく、唾液だけで歯を磨くことの有効性も示されている。

(8) はみがきありがとう

おかあさん、おとうさん、おじいさん、おばあさんと順番に仕上げ歯磨きをしてもらい、仕上げ磨きの上手なのはだれか？という話し。科学的なことは描かれていない。最後に写真入りで歯の磨き方を紹介。

(9) むしばあちゃん

むしばあちゃんは、子どもに代わって汚れた歯をそうじする。自分で磨かず放置すると大変なことになると、歯磨きの大切さを物語仕立てでむしばあちゃんが語る。虫歯の原因などは描かれていない。

(10) むし歯のしょうたい

歯医者に行ったりリコちゃん。歯医者さんが虫歯のことを説明し、小さいむし歯を治すというストーリー。ミュータンス菌が出す酸が歯を溶

かして虫歯になると簡単なメカニズムを話す。

(11) ななみちゃんのはみがき

主人公のななみちゃんが、はぶらしばあやと歯の学校に行き、むし歯の原因、進行を教えてもらう。甘い物を食べるとむし歯ばい菌が歯を溶かす。少しならよだれ（唾液）が修復するが、多くなると修復は難しくなるのでだらだら甘い物は食べない、歯ブラシやフロスで磨くとよいと教えられる。磨き方が詳しく紹介されている。

(12) じょうずな歯みがき

歯医者にむし歯の検査に行った、りこちゃん。一生懸命磨いているのにうまく磨けていず、ショックをうけるりこちゃんに、歯磨きのコツを衛生士が教える。鉛筆も正しく持つと文字が書きやすいように”えんぴつのようにもってちょちょ磨く”と細かいところまで磨きやすい、と、歯ブラシの持ち方のコツを教えてもらう。

(13) 歯いしゃさんはこわくない

歯医者がかわくてしかたのないなおくんが、歯医者に行く。歯医者さんが歯医者さんの服装、使う機器、治療方法をわかりやすく説明してくれ、小さなむし歯を治すことができる。

排便

(1) たべもののたび

食べ物が口にはいつてからどうなっていくのかがイラストで描かれている。旅の最後で排泄するという流れが描かれているが、排便の詳細には触れていない。

(2) みんなうんち

生き物は食べるからみなうんちする、と様々な動物のうんちが描かれている。

(3) うんこ

様々な動物のうんこと、ぼくのうんこが描かれている。

(4) うんちはどうしてでるの？

食べ物を食べてから体内でどのようになっていくのかがイラストで詳しく描かれている。また、よりよい排便のためには、よく食べ、よく遊ぶ、時間を決めて食べる等生活習慣を整える

こと、と説明されている。

(5) うんぴ・うんによ・うんち・うんご

タイトルは、様々なうんちの状態を表しており、食べ物や体の状態による便の違いが描かれている。元気でまめや野菜をきちんと食べて早寝早起きするとバナナみたいで匂いのない便が出る。便とは、食べ物のかすやいらなくなったものなので必ず出るもの。毎日観察日記をつけることをすすめている。便について詳しく描かれている。

(6) うんちのえほん

どのような流れで排泄されるのか？何を食べるとどのような便が出るのか？どのような生活をすれば出るのか？どんな便がいいのか？排便後の便のリサイクル、トイレのマナーにいたるまで排便について疑問に思うことをドクターフジタ（作者）が語るという形式で描かれている。

(7) うんちさま

うんちが出ない理由を夢の中でうんちさまにきく。緊張しないこと、水をいっぱいのみ、大きく深呼吸するとうんちが出る、とのことで翌朝、目覚めた男の子はそれらを実行すると排便がある。

(8) うんち

金魚や鳥を含めて様々な生き物のうんちを描き、元気な子どもは元気なうんちをすることが示されている。

(9) うんちはどこへいくの？

ごはんを食べたら、食べ物は身体の中でどうなっているのか？胃で消化された食べ物は体を通り抜けるのに、どのくらい時間がかかるか？食べたものをうんちで身体の外に出して、そのうんちは、そのあとどうなるのか？物を食べてから排便まで疑問に思うことと、排便以降のリサイクルまでが描かれている。しかけ絵本で、身体のある部分の扉を開くと詳細が書かれているという内容。

(10) おなかのこびと

お腹にいるこびとが食べ物と一緒に排便まで旅する。不摂生するとこんなうんちになるとい

うことが描かれている。

(11) そのときうんちはどこにいる？

食べてからうんちが出るまでを普通の生活に合わせて体内を照らせ合わせ描いている。最後にうんちが出るための食品と排便のメカニズムを紹介。うんちカレンダーが示されている。

3. 含まれる内容

むし歯、排便別に絵本に描かれている内容を

抽出し、それらの有無を絵本別に調査した(表2、表3)。

むし歯

(1) テーマ

むし歯の絵本には、絵本によって、強調されるテーマが異なり、虫歯全般について描かれている絵本、歯磨きを主として描かれている絵本、歯の生え代わりを主として描かれている絵本、歯科医の役割について描かれているものとさま

表2 むし歯絵本の内容

ID	書名	健康教育	テーマ	歯の役割・構造	虫歯の状態	虫歯の原因					結果	予防方法					歯科医の役割
						甘い物	虫歯菌	プラーク	酸	滞在時間		歯磨き	歯き方	仕上げ磨き	栄養摂取	唾液	
1	はははのはなし	○	虫歯	○	○	○	○	○	○		○	○			○		
2	むしばミュータンスのぼうけん	○	虫歯		○	○	○	○	○		○	○					○
3	むしばちゃんのおかしなあれ	○	虫歯予防		○	○	○		○	○	○	○			○		○
4	ぼくのはもうおとな	○	6歳臼歯	○	○							○	○				○
5	むしばはどうしてできるの？	○	虫歯	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○		
6	いーはとあーは	○	歯	○	○							○	○	○			
7	むし歯の몬드	○	虫歯	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
8	はみがきありがとう		歯磨き									○	○	○			
9	むしばあちゃん		歯磨き			○					○	○					○
10	むし歯のしょうたい	○	虫歯		○	○	○	○	○								○
11	ななみちゃんのはみがき	○	歯磨き		○	○	○	○		○		○	○	○		○	
12	じょうずな歯みがき	○	歯磨き		○	○	○	○				○	○				○
13	歯いしゃさんはこわくない	○	歯医者		○			○									○

表3 排便絵本の内容

ID	書名	健康教育	テーマ	排便の意味	排便の形	種類	健康状態	状態	違いの理由	排便促進	マナー	動物
1	たべものたび	△	食べたから排泄まで		○							
2	みんなうんち		動物たちもみんなうんちする									○
3	うんこ		動物のうんこ				○					○
4	やさしいからだのえほん2・うんちはどうしてでるの？	○	食べたから排泄まで	○	○	○	○	○		○		
5	うんぴ・うんによ・うんち・うんこ	○	食べ物と便の関係		○	○	○	○	○	○		
6	うんちのえほん	○○	便のしくみ等		○	○	○	○	○	○	○	
7	うんちさま	○	排泄できない理由		○	○	○		○		○	
8	うんち		動物たちのうんち									○
9	からだのふしぎ うんちはどこへいくの？	△	食べたから排泄、リサイクルまで		○		○					
10	おなかのこびと	○	食べたから排泄まで		○	○	○	○	○			
11	そのときうんちはどこにいる？	○	食べたから排泄まで		○					○		

ざまであった。

(2) むし菌のメカニズム

メインテーマが歯磨きであっても「はみがきありがとう」「むしばあちゃん」以外の絵本には、甘い食べ物を放置しておくで虫歯菌が派生して、酸により歯が溶け出すという一連の虫歯のメカニズムが描かれている。「むしばはどうしてできるの？」は、酸という言葉遣わず、酸を毒として描いていた。また、虫歯菌をミュータンスと表現しているものと虫歯菌、ばい菌と表しているものが存在した。

どの絵本も甘いものを食べて放置しているとむし菌になる、ということはわかりやすく描かれている。しかし、甘いものを否定するのではなく、長時間口にとどめないようにするという内容が「むしばちゃんのなかよしだあれ」「むしばはどうしてできるの」「むし菌のもんだい」「ななみちゃんのはみがき」では描かれていた。

原因となるものは、絵本により少しずつ描かれ方が異なるが、「むし菌のもんだい」には全ての要素が描かれていた。

(3) むし菌の予防

予防方法としては、歯磨き、栄養摂取、唾液の働き等が描かれていた。予防法としての歯磨きは、「むし菌のしょうたい」「菌いしゃさんはこわくない」以外に描かれていた。磨き方まで描かれているのは「ほくのはもうおとな」「むしばはどうしてできるの?」「いーはとあーは」「むし菌のもんだい」「はみがきありがとう」「ななみちゃんのはみがき」「じょうずな菌みがき」、大人が行う仕上げ磨きまで描かれているのは「むしばはどうしてできるの?」「いーはとあーは」「むし菌のもんだい」「はみがきありがとう」「ななみちゃんのはみがき」であった。

歯磨き以外のむし菌予防、歯のために必要な栄養を摂取することについては、「はははのはなし」「むしばちゃんのなかよしだあれ」「むしばはどうしてできるの?」の3冊のみに描かれていた。

(4) むし菌の放置

「はははのはなし」「むしばミュータンスのぼうけん」「むしばちゃんのなかよしだあれ」「むしばあちゃん」には、むし菌を放置した結果、身体まで弱ってしまう、歌えない、話せなくなるなどが描かれていた。

(5) その他

かこさとし氏の虫歯関連絵本は、少しずつ含まれる内容や語り手、が異なっているが、4冊とも子どもやミュータンスといった登場人物とともにむし菌を考える物語的な内容である。

排便

(1) 含まれる要素

排便についての絵本では、排便の意味、便の形、種類・形、便の健康状態、状態、違いの理由、排便のための生活、排便のメカニズム、そしてトイレのマナー、その他が描かれていた。

また、「みんなうんち」「うんこ」「うんち」は、人間と様々な動物や生き物のうんちが描かれ動物は、それぞれ異なるうんちをすること、動物というものは必ず排便排泄するということが描かれていた。

「うんちはどうしてでるの?」には食べ物のカスとして排便の意味が描かれていた。

(2) 排便のメカニズム

口から食べ物がはいり、食道を通り胃にいき、ねばねばになった後、腸にいき、必要な栄養素は体に残り残りが便となるということは、動物の排便を描いた3冊以外は全てに描かれていた。「うんちはどうしてでるの?」「うんぴ・うんによ・うんち・うんご」「うんちのえほん」「うんちさま」「おなかのこびと」には、健康状態による便の形を種類とともに紹介されていた。

(3) 排便促進

「うんちはどうしてでるの?」には、規則正しい生活、よくかんでの食事、運動「うんぴ・うんによ・うんち・うんご」には豆、野菜、芋を食べ、早寝早起き。がまんしない「うんちのえほん」には、野菜摂取、規則正しい生活習慣、室内でゲームばかりしない、「うんちさま」には

早寝早起き、起きたら水コップ一杯、がまんしない、食べたらすぐに動かない「おなかのこびと」ねばねば食品、発酵食品がよいと排便促進要因が描かれていた。

(4) 排便がない場合の結果

むし歯の絵本では、虫歯を放置しておくとうなるのかという結果を描いている絵本があったが、排便については、もし排便がなかったらどうなるかの結果が描かれている絵本は存在しなかった。

(5) その他

排便が、健康維持にとって大事であることについて描かれている絵本はなかった。

4. 健康教育の教材としての利用可能性

内容がわかりやすいこと、メカニズムがわかることを根拠に健康教育の教材としての利用可能性を○、△、無印で表に示した。「むし歯のもんだい」は詳細が書かれているが、前述の通り、幼児を対象とするには少し難しい内容であるため、○△とした。「はみがきさんありがとう」と「むしばあちゃん」は、歯磨きのことを題材とした物語であり虫歯のメカニズムなどは描かれていないため、無印とした。

Ⅳ. 考察

本研究は、病気の予防という観点からの健康教育に用いられる可能性のある絵本から“むし歯”と“排便”にテーマを絞り、健康教育で用いる教材としての有用性を検討することが目的であった。

むし歯の絵本では、ほとんどの絵本にむし歯のメカニズムがわかりやすく示されており、子どもにとっても理解しやすいと考えられる。またほぼ全部の絵本は、歯科医という専門家により監修、または推薦されており描かれた内容について間違いはないことが保証されている。ほとんどの絵本は比較的判が小さいので、保育の中で多くの子どもを対象として読み聞かせると

いうより少人数での読み聞かせ、家庭での読み合いに適しているものが多い。

近年、むし歯予防についての教育が浸透しており例えば、昭和62年に6歳だった子どもがむし歯になる確率（乳歯・永久歯）は91%であったが平成23年に6歳だったの子どものむし歯率は42%になり24年間でむし歯率は半数以下に改善されている（厚生労働省、2016）。それでも乳幼児の罹患している疾病としては一番多い割合なので引き続き子どもに対するむし歯教育は必要であると考えられる。本研究で調査対象とした絵本は、少しずつ含まれる内容が異なっているため、何冊かを組み合わせて健康教育に使用するとよいと考えられる。

排便の絵本は、メカニズム、便の違い、排便の促進要因が主な内容として描かれていることがわかった。ただし、むし歯で描かれていたように、もし排便がなかった場合（便秘した場合）の結果について描かれているものはなかった。

厚生労働省（2015）が6歳未満3,871人を対象とした排便の調査によると約25%がほぼ毎日の排便頻度ではなかった。また、カゴメ研究所（2005）の調査では2日1回以下の排便が全体の20%であった。便秘をする子どもがある一定数存在するということである。

トイレ研究所（2007）によれば、子どもの便秘を見落としがちな理由のひとつは「便秘に関する正しい情報不足」であるとのことである。便秘をすると体がどうなるのか？なぜ排便が大切なのか？を含めた絵本が望まれる。後藤（2008）や瀬戸山（2009）のように、このような現状から自費出版するということも考えられる。

絵本を健康教育の教材に用いるということについて考察する。

永井（2013）は、絵本を教材として活用することは子どもの主体性を促し楽しみながら学習の幅や奥行きを広げる機会となり、別の角度から絵本に出会うことになるであろうと述べている。

中村（2009）は、いわゆる科学の絵本は子ど

もたちにとっておもしろくないわけがないが、物語絵本より読まれていないのではないか。しかし物語絵本とは違った喜びを子どもたちにもたらししてくれるはずなのでどんどん子どもに読んでほしいと述べている。

本著で扱った絵本について著者が現役保育者 9 名に認知度をたずねたところ、かこさとし作の絵本以外、ほとんど認知されていなかった。

保育者の間で科学的な絵本について認知を高め、読むことが行われるよう、保育者養成機関でもその方法を検討する必要がある。

かこさとし氏の絵本は、出版から 40 年～50 年経っていても今なお読み継がれており、物語絵本の絵本選書のひとつの基準である成人式を迎えた絵本でもある。むし菌関連で何冊もの作品を輩出しているのは、子どもたちの大切な歯を守りたいという強い気持ちがあるのだと考えられる。かこ氏は、「かこさとし遊びと絵本で子どもの未来を」(鈴木、2021)中のインタビューの中で科学的な絵本について「まず科学の原則や原理からはなれないこと、作者が何をいいたいかははっきりしていること、絵は子どもに興味をもってもらうように人間くささを出そうとしました。」「ひとつひとつのものが小さくてもかわいく描いたり、ユーモアがあったり、存在をアピールするように工夫します」等と語っている。このように作者の気持ちが込められて作られた絵本を今後も子どもたちに読み継がれることを願う。

最後に、健康教育についてであるが、近年保育現場では衛生師や保健師が来園して歯磨き指導や排便指導を行ったりするところもあるということである。教材を使っただけでなく専門家の話を聞く機会は、より子どもたちに内容が浸透すると思われる。

本研究はむし菌と排便に絞った調査であったが、今後、健康教育で用いる可能性のあるテーマをさらに調査すること、子どもに読んでみてその反応を調べる等が望まれる。

引用文献

- 有馬明恵 (2021) 「内容分析の方法」株式会社ナカニシヤ出版 京都市
- カゴメ研究所 (2005) 乳幼児の食生活と排便実態
<https://www.kagome.co.jp/library/company/news/2005/img/050811-1.pdf>
- 川崎真弥、堤千代子、森恵子 (2011) 絵本を使った食育の効果 中国学園紀要 10、9-17
- 厚生労働省 (2016) 平成 28 年度歯科疾患実態調査
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/62-28-02.pdf>
- 厚生労働省 (2015) 平成 27 年度 乳幼児栄養調査結果の概要
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitssuite/bunya/0000134208.html>
- 後藤桂子、菱沼典子、松谷美和子他 (2005) 5～6 歳児用「からだの絵本」に対する市民からの評価、聖路加看護学会誌 12、73-79
- 相樂真樹子 (2015) 〈ねらい〉と〈内容〉から学ぶ保育内容・領域健康 清水将之・相樂真樹子編著 149-153 わかば社、東京都板橋区
- 澤田節子 (2010) 子どもに健康を語れるか—絵本にみる排泄教育、東邦学誌 39(1)、85-100
- 鈴木愛一郎 (2021) 「かこさとし 遊びと絵本で子どもの未来を」あかね書房、千代田区
- 瀬戸山陽子、後藤桂子、佐居由美他 (2009) 未就学児を対象とした健康教育絵本に対する評価、聖路加看護学会誌 13、37-44
- トイレ研究所 (2007) いいうんち研究所
<https://www.toilet.or.jp/iiunchi-labo/unchistat2007.html>
- 永井雅子 (2013) 教材としての絵本「ベーシック絵本入門」108-111 ミネルヴァ書房、京都市
- 中村枉子 (2009) 「絵本の本」福音館書店、東京都中央区
- 文部科学省「幼稚園教育要領解説」(2019) 145-166 フレーベル館 東京都文京区